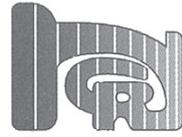


フィリア・レター

～真の友人からの手紙～



発行：中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明 1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.johas.go.jp/>



「如月の頃に思う」

中部ろうさい病院 院長 加藤 文彦

遅ればせながら、新年あけましておめでとうございます。皆様が穏やかな新年を迎えられたことを祈念いたします。なお、この文章が皆様の目に触れるのは2月となりますので、2月(如月)の事を書かせて戴きます。

私自身が2月22日(猫の日)生まれですので、2月という月には特別な思い入れがあります。2月を「如月(きさらぎ)」と旧暦(太陰暦)で表現しますと、真っ先に私の頭に浮かぶのは、平安時代の僧侶、西行法師の有名な和歌「願わくは花のもとにて春死なむその如月の望月の頃」です。現代文にすると「叶うことならば、桜の花の下で春死にたい。2月15日の満月の頃に。」となります。旧暦の2月15日頃は現在用いられている新暦(太陽暦)の3月末頃であり、桜の花の咲く頃となります。また、旧暦では月齢が日付となりますので、毎月15日が満月となります(満月の夜のことを今でも十五夜といいます)。一方、旧暦の2月15日はお釈迦様の入滅の日です。

つまり、西行法師はお釈迦様の命日に死にたいと願う歌を詠んだということです。そして、その思いが天(お釈迦様?)に通じたのか、西行法師は2月16日に亡くなっています。

現代の本邦では高齢化が進み、要介護の方が増加傾向にあります。そこで国家のみならず皆さんが気にしだしたのが、平均寿命よりも健康寿命です。すなわち、できるだけ人の世話にならないように、寝たきりとなる期間をできるだけ短くして人生の最後を迎えたいという思いです。そこで皆さんが願うのが「ピンピンコロリ」です。西行法師は「ピンピンコロリ」だったようで、亡くなる前年に京都高雄の神護寺に登っています。しかし、現代では西行法師のように「ピンピンコロリ」となれる可能性は10%しかありませんから、90%の確率で終末は「寝たきり」であると思っただ方が賢明かと考えます。すなわち、自身の終末を想定して生活環境を整えつつ、日々の健康に気をつけて生活していくことが大切なのではないでしょうか。

今月号のお知らせ

- ①「如月の頃に思う」……………院長 加藤 文彦 ……………外来看護師長 鈴木 美代子
- ②当院の分娩の現状と4Dエコー外来開設、
子宮頸がん検診と腹腔鏡下手術の今後について ……………糖尿病看護認定看護師 平松 一葉
- ……………産婦人科部長 藤原 多子 ……………第12回市民健康セミナー開催報告
- ③認定看護師紹介 ……………耳鼻咽喉科医師 楊 承歡
- ……………透析看護認定看護師 吉松 紀子
- ④初の糖尿病週間 院外イベントを終えて ……………院内行事のご紹介
- ……………編集後記